

授業実践(第1学年)

単元名 3つのかずのけいさん

(目指す児童像) ○ 自分の考えをもち、表現する児童

目 標

手だて

第1学年

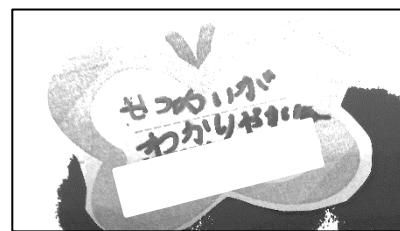
ア 知識及び技能
 (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知る。
 (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
 (ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
 (エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知る。
 イ 思考力、判断力、表現力等
 (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

<Ⅰ主体的な学びをめざして>

- ① 基礎・基本の定着
 - ① ヒントカードの工夫
 自力解決が難しい児童にはヒントとなる図カードを渡し、それやブロックを操作しながら解決ができるようにする。
 - ② 適用問題の取組
 児童に本時の学習内容を定着させたり、児童自身が方法を確認したりするように、授業終末に問題を解く時間を確実にとる。
- ② 自ら考え、表現する力の育成
 - ① 算数コーナーの活用
 本単元の考え方に結びつくような既習事項を掲示し、課題設定や自力解決の際に確認できるようにする。
 - ② 自分1人で問題解決する時間の確保
 自力解決時に、ノートやワークシートに考えを「書く」活動を確保し、児童が十分に自分の思考を整理したり、発表する内容を確認したりできるようにする。
- ③ 学ぶ意欲を高める工夫
 - ① 導入の工夫
 1人1台端末でデジタル教科書のアニメーションをテレビに投影し、児童が意欲的に、自力解決に臨めるようにする。

<Ⅱ対話的な学びを目指して>

- ① 学び合う活動
 - ① ペア発表
 自力解決後の発表はペアで行い、ブロックを操作する役と説明する役に分かれて、答えの導き方を発表させる。
 - ② ペア学習やグループ学習
 適用問題後、隣同士で話し合う時間をとり、自分の考えを言葉で伝えられたり、他の考えを聞き、認め合えたりできるようにする。
- ② 互いの考えを認め合う環境づくり
 - ① ハンドサインの工夫
 自力解決、練り上げに入る前にハンドサインを確認することで、児童の実態を把握し、個別の指導に生かせるようにする。
 - ② あったか言葉の掲示
 友達の発言を聞いた際の肯定的な反応や声掛けを掲示し、授業の中で活用できるようにする。



単元の目標

- 3つの数の加減計算の場面を1つの式に表せることを理解し、その計算が確実にできる。
 (知識及び技能)
- 2つの数の加法や減法を基にして、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え表現している。
 (思考力、判断力、表現力等)
- 3つの数の加減計算について、式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。
 (学びに向かう力、人間性等)

1. 本時の学習問題を知る。【重点I手立て3①】



T: 動物はどのように動いていますか。
C: ネコがバスに5匹乗っています。
C: 3匹降りました。
C: 4匹乗りました。

○1人1台端末でデジタル教科書のアニメーションをテレビに投影し、児童が意欲的に、自力解決に臨めるようにした。

2. 課題を立てる。

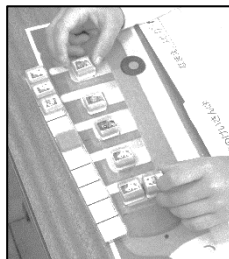
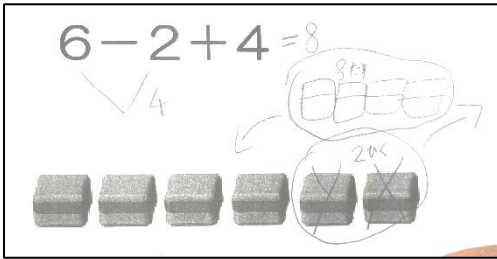
課題: 「ひく」と「たす」がまざっているけいさんのしかたをかんがえよう。

3. 見通しを立てる。【重点I手立て2①・重点II手立て2①】

T: 1人で説明できるかハンドサインをしてください。
T: 算数コーナーを見て、活用できそうなことはありますか。
C: 「たす・たす」「ひく・ひく」の時は前から順に計算した。

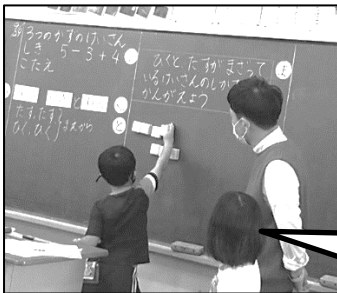
○ハンドサインをさせることで、見通しの時間が必要か、確認ができた。
●算数コーナーの掲示を示しながら前時までの学習を振り返らせたが、見通しをもたせすぎたという意見も出た。

4. 1つの式に表して、計算の仕方を考える。【重点I手立て1①・2②】



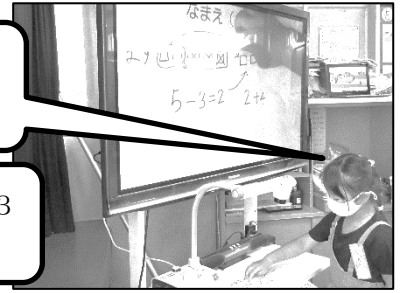
○自力解決時に、ワークシートに考えを「書く」活動を十分に確保することができた。
●自力解決が難しい児童にはヒントとなるブロックを渡し、それを操作しながら解決ができるようにさせたが、導入で流したアニメーションを再度流して確認させてもよかった。

5. 自分の考えを発表する。【重点II手立て1①】



C: 初めに5匹乗っていました。次にそこから3匹降りました。そのあと4匹乗って答えは6匹です。

C: 初めにブロックを5個つけます。次に5個から3個取ります。最後に4個足して答えは6匹です。



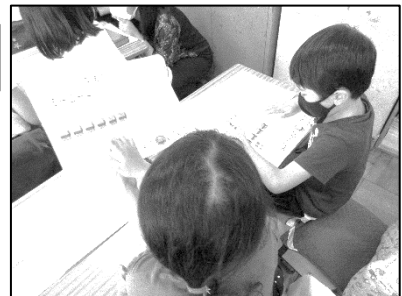
○自力解決後にペアを作り、ブロックを操作する役と説明する役に分かれて、答えの導き方を発表させた。
●児童のシートに、色分けをして、順序立てて計算することは確認できたが、もう1度ブロック操作に戻り、その計算がブロック操作のどの部分に当たるか、全体で確認するべきであった。(具体物と立式のリンク)

6. 3つの数の加減混合計算の仕方を確かめ、まとめる。

まとめ: 「ひく」と「たす」がまざっていても、まえからじゅんにけいさんする。

7. 適用問題に取り組む。【重点I手立て1②・重点II手立て1①・2①】

○適用問題のシートにも自分の考えを書かせ、隣の児童に説明をさせた。また、教室掲示の「あったか言葉」に注目させて、相手の説明のよさを伝えるように指示もできた。



【指導講評】さいたま市立与野南小学校 校長 鈴木 晴雄 先生

- 問題提示や導入の工夫が良かった。問題文「何匹になりましたか。」の部分を見事に児童に考えさせたことで、児童が受け身にならず、主体的に取り組めた。他の問題も少しずつ出すことで児童の主体性が生まれる。
- 今回は、図をかくよりもブロック操作を主に行ったほうがよかった。図は段階的に取り組んでいくとよい。
- どんな図をかけば、どんな説明文を書けば、児童がA評価になるのか、授業者が事前に考える必要がある。
- 思考力をノートやワークシートで評価する際、ただ丸を付けるのではなく、良い表現や図に線を引くとよい。
- 発表を聞いた後に、その説明の何がよかったかを児童に聞きながら練り上げていくとよい。